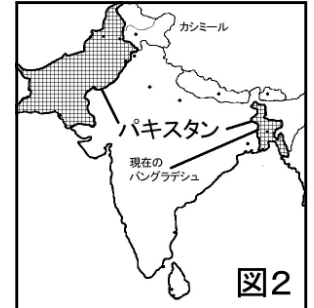


1935年 【13: 】 制定（1919年のインド統治法を改定）
連邦制と**各州ごとの自治**を認めたが、インド総督と州知事の任免権はイギリスにあり、これも完全独立にはほど遠いものだった！

1937年、この統治法に基づいて州選挙が行われ、多くの州で国民会議派が政権を獲得した。ムスリムが多数を占める州ではムスリムの地域政党が政権を獲得した。イギリスのインド支配は、インド人知識層に依拠するようになり、軍人や役人にインド人が登用されるようになったが、その多くはヒンドゥー系であり、除外されたムスリムの不満は高まった。

7) 【14: 】 1876-1948 が指導する全インド=ムスリム連盟は、1937年の州選挙以降国民会議派との対決姿勢を強め、1940年のラホール大会以降は、ムスリムが多数を占める州だけで 【15: 】 ※4として独立することを決議し、対立は決定的となった。図2参照。

※4 パキスタンとは、ムスリムが多数を占める五大地域であるパンジャブのP、北西辺境州に住むアフガン人のA、カシミール、シンドのS、バローチスターンのTANを表す。パキスタンの名は、英領インドの独立運動の中でジンナーらが提唱したムスリム多数地域の分離独立要求において、将来樹立されるべき国家の名として既に採用され、1947年の独立とともに正式な国名となった。



8) 第二次世界大戦が勃発すると、国民会議派はインド国民に一言の相談もなく参戦させたイギリス政府への激しい怒りを表明。イギリスは、戦後のインド側各宗派、政党、藩王国との憲法制定に関する協議を行うと回答した。1940年3月、国民会議派はガンディーの非暴力の精神にもとづいて戦争反対を唱え、サティヤーグラハ運動の開始を宣言した。それに対してムスリム連盟側は同年、ジンナーは「二民族論」を掲げ、インドとは別個のムスリム国家の建設を目指すことを明確にした。ネルーはジンナーと会見して民族の団結と協力を訴えたが、ジンナーは拒否した。イギリスは国民会議派の反戦活動を取り締まり、逮捕して投獄した。1941年12月、日本が太平洋戦争を開始し、42年3月にはビルマに侵攻し、ラングーンを占領してインドに迫った。アメリカのF.ローズヴェルト大統領はインドを対日戦に協力させるために、イギリスに対してインドの独立承認を強く迫った。イギリスのチャーチル首相の対応は煮え切らないもので、当然にも国民会議派などのあらゆる諸政党に拒否された。ガンディーの提案で1942年8月8日「インドを立ち去れ（クィット=インディア）」運動が開始された。イギリスは翌日、ガンディー、ネルー、アーザード（ムスリム）など指導部を逮捕するとインド全土で抗議活動が展開され、反英・反戦暴動が起こった。一方、ガンディーの非暴力主義を批判して国民会議から離れた左派指導者**チャンドラ=ボース**は日本軍に協力してイギリスからの独立を実力で勝ち取ろうと考え、「インド国民軍」を編成し、日本軍のインパール作戦に参加した。しかし、日本軍が敗れたため、ボースはインド脱出を図り、途中台湾で事故死した。このようにインドは騒乱の中で第2次世界大戦の終結を迎えた。

第二次世界大戦後のインド

教科書の伝統的記述順序を無視して通史記述を続行する。

- 1) 1947年、イギリスは、ともに連邦内の自治領として、**インド連邦**と【16: 】が分離・独立することを承認した。【17: 】（労働党）は、セイロン、ビルマの独立も承認している。住民の大半がイスラーム系、藩王がヒンドゥー系というインド西北部の**カシミール**については、インド・パキスタンの間で1947年10月以降、武力行使を含む紛争が続いている。
- 2) 1948年1月30日、【18: 】暗殺される（犯人は狂信的なヒンドゥー教徒）。同年2月 セイロンが、連邦内のイギリス自治領として独立（1972年、スリランカと改称）。カシミールの帰属をめぐる第一次インド=パキスタン戦争に突入。（紛争は1947年から）
- 3) 1950年1月、**インド共和国**成立。王冠への忠誠を否定し共和国となった。カーストによる差別禁止条項を含む憲法が公布された。この憲法の起草委員長となった政治家は**アンベードカル**1893-1957である。彼は1956年、仏教に改宗した。
- 4) 1956年、パキスタンは「パキスタン=イスラーム共和国」と改称。1958年10月、軍事クーデタで再びパキスタンに戻る。カシミールの帰属をめぐるインドとの紛争絶えず、次第に中国に接近した。
- 5) 1971年、東パキスタンが**バングラデシュ**として独立した。図2参照。
- 6) 1972年、セイロンは世界初の女性首相【19: 】の下で「スリランカ共和国」と改称（島名は今もセイロン島）。国民の7割が仏教徒。1984年、コロンボからその南東に位置する**スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ**へ首都を変更したが行政庁舎は旧首都にある。シンハラ人（仏教徒）とタミル人（ヒンドゥー教徒）の対立は次第に激しくなり、1987年～2009年の間は事実上の内戦状態だったが、現在は終結した。図3参照。



- 7) 国民会議派は、1947年独立を達成してからは、インドの最大政党として長期政権を続け、70～80年代にはインディラ、ラジブのガンディー母子が政権を担当したが、次第に国民の支持を失い、90年代には主導権を失った。
- 8) 1996年の総選挙でインド人民党が勢力を伸ばし、1998年から2004年までアタル・ビハリー・ヴァージペイー（バジパイ）を首相にインド人民党を中軸とする国民民主同盟（NDA）連立政権が成立。2004年に政権を奪還されたが、2014年からは人民党を与党とするナレンドラ・モディ政権に移行した。